

「短歌」 秦野に移り住んで・半年が経つ

平成三十年七月 土田 舞山

初詣で人々の渦に寒川の神社の神々大わらわならむ

千キロも離れし秦野に故郷の「FMはな」は台風告げる

架橋から東名高速見下ろしつ北海道の友らを偲ぶ

新緑やきらきら光るは椿の葉北国育ちの我は知らざり

凜として聳える富士を仰ぎ見て散歩の朝の爽やかなるよ

五千歩を日課に散歩し昼寝もし短歌をひねる充実の日々

県内一の秦野のさくら6キロを咲き咲く花のトンネル潜る

秦野の水は富士の伏流名水なれば朝夕通し欠かさずに飲む

主治医師の診断結果カルテ翳し歳だからねは尤もなれど

まじまじと吾が顔を見て歳問われ十ほどさばよみて言う

デイスーパービスや幼き歌の鯉のぼり尾鰭が奮うを声高だかに

バス停で高校生らが一斉にスマホ弄るは異様に見ゆる